

重点的・戦略的に統計を整備すべき分野について(各委員提出資料)

- ・ 岡室委員提出資料

- ・ 田辺委員提出資料

- ・ 中村委員提出資料

- ・ 野村委員提出資料

- ・ 三輪委員提出資料

1) 企業・事業所の開業・廃業等に関する統計

日本の経済・社会のダイナミックな発展を捉えるため、企業・事業所等の開業・廃業動向を正確に把握・分析することは重要。

現在、開業・廃業は主に「事業所・企業統計調査」に基づいて把握されているが、調査の間隔が長いこと、事業所の把握が不十分なこと（例えば電話帳掲載事業所数との乖離）、企業の新規開業・廃業と、既存事業所の移転、既存企業による事業所開設・閉鎖、既存企業・事業所の業種転換等を区別できない。就業構造基本調査、法人登記統計、雇用保険統計、税務統計、電話帳等による総合的・網羅的な把握と分類が可能か。

2) 企業等のイノベーション活動に関する統計

今後の日本の国際競争力と生産性の向上を図るため、また経済社会のダイナミックな発展を把握するために、イノベーション活動の総合的な把握・分析が重要。

現存する関連統計（企業活動基本調査、科学技術研究調査、知的財産活動調査等）では、それぞれイノベーション活動の一面しか把握できず、またインフォーマルな活動を把握できない。

科学技術研究調査は研究開発のインプット面のみ

知的財産活動調査は研究開発のアウトプット面のみ

企業活動基本調査は一応両面を見ているが、調査内容と対象（規模、業種）の限定～とくに、研究開発活動のグローバル化、研究開発の組織、共同研究、産学連携等に関して情報が乏しい。

3) 企業間・企業内の分業・分権化、企業組織の変化に関する統計

企業の内部組織・企業間関係のあり方とその動的発展に関する総合的な調査が必要。「企業活動基本調査」には規模・業種の限定があり、また企業間分業に関する情報が不十分。

例えば、本社や持株会社の役割、外注・アウトソーシング、合併・買収や営業譲渡、分社化・合弁事業等の把握が不十分。合併・買収等については、平成11年の独占禁止法の改正以来、全体的な把握ができず、新聞報道等に基づく民間M&A仲介会社の発表がほぼ唯一の情報源という状況。

1. 知的資産に関する統計整備

理由：知識経済社会においては、国家・企業の競争力の源泉となる知的資産（無形資産）に関する政策を策定するため、知的資産の形成、所有、利用に関する統計の整備が不可欠。

2. エネルギー消費に関する統計

理由：地球環境問題の検討、省エネルギーの推進等の観点から、消費サイドからのエネルギー消費統計の充実が不可欠。

WG2 において議論の対象としていただきたい事柄

1. 経済センサスについて

(IO、SNA、県民・市民経済計算の基礎として)

- ①「売上高とその内訳」、「必要経費等」の細目のレベルーアメリカの **Economic Census** は **NAICS8** 桁分類での投入、経費調査を含む。日本のコモ法の推計の基盤は脆弱。
- ②地域別集計については、地域経済計算、地域産業連関表の推計に資する方法とする。
- ③ストック調査の可能性

2. 行政情報の活用

- ①ビジネス・レジスターー登記情報で十分か（アメリカは **IRS** からの情報による）。
- ②徴税、社会保険料・給付からの情報ーアメリカは **GDP** 速報とともに、個人、企業、政府の所得支出勘定を四半期で公表。日本は雇用者報酬のみ。

3. 地域統計への展開

- ①既存統計の地域・県・圏別集計（家計調査は県庁所在市）
- ②県民経済計算四半期速報ー中央からの情報開示、中央における地域統計の統一的推計（アメリカは4ヵ月ラグで州・郡レベルの個人所得統計）

WG2で体系的整備を検討すべき分野について

野村浩二

2008年2月20日

WG2の第一回会議では「第2WGの進め方(案)」(資料4)として、(1)経済統計の体系的整備、(2)景気判断への有用性向上、(3)重点的・戦略的な統計整備、の三分野が示された。

分散型統計システムの弊害を緩和することは経済統計に関する基本計画を検討するWG2の主目的であり、「経済統計の体系的整備」は全体に貫徹されるべき視点である。また過度の分散型による弊害は、加工統計と一次統計との間にのみ見出されるものではなく、JSNAとIOなど加工統計間においても、また類似した調査客体あるいは調査対象を持つ指定統計と承認統計など一次統計間においても存在する。体系的整備分野においては、重点分野の目的別視野をより明確に設定することが望ましい。以下は、前回案を再構築した一例である。

(A) GDP推計の精度向上を目的とした統計整備

i. 基準年次GDP推計 [Quinquennial]

- ・ JSNAとIO基本表のIntegrationへ向けた構造的検討(中長期的な方向性と具体的なタイムスケジュール)
- ・ 産業別GDP勘定の精度向上を目的とした経済センサスの設計(名簿整備と投入産出構造の基準年捕捉を主目的とすれば、体系的整備の視点から後者の検討)
- ・ 生産・支出・所得の三面からのGDP推計精度検証のための体系の再設計(生産面からの推計精度向上、支出面の改定、所得面の整備検討)
- ・ 利用されるその他一次統計調査の検討

ii. 年次GDP推計 [Annual]

- ・ 中間年次推計のための推計体系の検討(Annual IO、コモ法による間接的推計)
- ・ 法人企業統計など企業調査の精度向上の検討を含む直接的推計
- ・ 価格統計体系の検討

iii. 月次・四半期GDP推計 [Monthly / Quarterly]

(B) 労働統計の精度向上を目的とした統計整備

(C) ストック勘定の精度向上を目的とした統計整備

(D) 企業活動の精度向上を目的とした統計整備

(E) 政府/NPI統計の精度向上を目的とした統計整備

(F) 環境・エネルギー統計の精度向上および経済統計との整合を目的とした統計整備

また現在、「基幹統計」と「基幹統計調査」の捉え方として、(1)両者を峻別する方向と(2)両者を実質的に一体視する考え方がある。(1)に基づき、「基幹統計」をユーザーサイドからの要請や重要性に基づいて設定するのであれば、上記の検討分野の設定は「基幹統計」候補の検討と関連して議論される必要がある。そしてそのとき、それぞれの分野における精度向上のため各種調査統計との対応の議論は、「基幹統計調査」の設定に対するより直接的な検討となる。上記統計整備の分野は、更なる細分化を含め、「基幹統計」および「基幹統計調査」との対応を視野に入れて議論されるべきである。

*これがこの WG の担当範囲かどうかはどこかでお決めになると思います。現時点で行うべき最も基本的な作業は、60 年間維持されてきた基本的な概念や統計作成の枠組みの徹底的な見直しだと思います。その点で、その必要性を無視した（あるいは、それが念頭にならないように見える）「第 2WG の進め方（案）」には首を傾げます。

・GDP や物価統計などが、提供される財・サービスの質の変化に実質的にうまく対応しておらず、その結果、重大な問題点を含むことは誰もが痛感していると思っていました。どうやらそうでもないようです。したがって、第 1 回会合における多くの出席者方々の発言には驚きました。——技術進歩に伴う入院日数の短縮およびそれに伴う付加価値の減少を、どのように統計・指標に反映させるか？激烈な金融革命を実現させた時期の英米で、金融分野の TFP の上昇率が製造業以下であった、という結果にいかなる対応も不要か？などの、第 1 回会合で示した例示は、底流にある問題意識の一端です。

・このような基本的な問題点・限界・欠陥を無視して、「体系化」「精緻化」「網羅的であること」をしやにむに追及しようとする提案には正直言って驚きました。

・必要な作業は、このような基本的な問題点・限界・欠陥の重大さを見極め、対等策を模索する作業を開始することです。アメリカ等での経験に照らしても、簡単な「解決策」は見つからないでしょう。長く困難な作業に乗り出すことが必要です。

・この面からの「要請」「要求」がすべてではありませんが、とりわけ「サービス」統計の充実は、そのような分野で何をどのようにして捉えることが必要であり、performance/cost が高いかを判断するために重要だと思います。

・このような検討抜きで既定路線の精緻化・体系化を推進することは、クマやイノシシしか走らない「高速道路」を作るようなものだ、との批判を浴びるかもしれません。

*「産業」分野で言えば、私に関心があるのは、非製造業のうち、医療・教育・建設・各種ソフトウェアなどの分野です。しかし、このような分野で、売上高と従業者数・保有資産・「原材料」などを数え上げることにどのような意味があるのか、と考えない人は少ないと思います。何をどのようにして調べるかを、産業の実情と、収集する各種情報の必要性・重要性に即して判断する必要があります。上の課題を第 1 の課題と呼ぶと、これと表裏一体の関係にある第 2 の課題は、それぞれの分野について、この作業を開始することです。どの分野にも共通する標準化された指標を「体系的」に求めることでお仕舞いとはならないでしょう。

・忘れてはならないことは、第 1 の課題が想定する統計・指標は、第 2 の課題が想定する統計・指標を加工して得られる（だろう）2 次統計だという点です。素材が粗悪であり、的外れであれば、そこから作られるものは、「砂上の楼閣」です。親亀は、一次統計です。

「重点的・戦略的な」検討課題です。「重点的・戦略的は統計整備が必要な分野」について検討できるほど、土台がしっかりしていないと思います。以上、ご参考まで。